

## 水生昆虫談話会の紹介

山崎 孝史

当社の主業務の一つである生物分類は図鑑類や学術論文など、同定根拠を明らかにできる資料に基づいて行っている。また、対象とする分類群に関する学会等に参加し、最新の知見を得るように努めている。

学会は「同じ学問を専攻する学者が、研究上の協力・連絡・意見交換などのために組織する会（大辞林第二版）」と定義され、基本的には研究者が情報交換や研究発表を行うオフィシャルの場である。一方で研究者のみならず、ある分野、分類群に関心を持つ市民を交えて自由に議論を交わす場として「研究会」が存在する。当社では各社員が居住地域や興味の対象に応じて、北海道水生昆虫研究会、兵庫陸水生物研究会、南紀生物同好会、豊かな森川海を育てる会、陸水生物研究会などに参加している。ここでは故小川清氏をはじめ当社社員が20年以上にわたって参加している水生昆虫談話会の活動を紹介したい。

水生昆虫談話会は、会員相互の情報交換と水生昆虫研究の発展を目的として1982年に創設された。本会は7名の世話人を中心に全会員がボランティアで運

営しており、南は沖縄から北は北海道まで全国に約210名の会員を擁している。毎月第3土曜日に関東（主に東京、神奈川）で例会を開催し、2012年12月現在で367回と他に類をみない頻度で活動している。年に1~2回は採集を兼ねた宿泊例会も企画されており、こちらは各地の会員の尽力によって、熊本、山梨、群馬、千葉、仙台など様々な地域で開催されている。また、川や水辺に関する情報を幅広く収録した「水辺の輪」を会報として年1回発行している。毎月の例会の後には、懇親会になだれ込むのが常であり、研究者、学生、NPO、釣り人、環境調査会社などそれぞれのスタンスで水生昆虫に関心を持つ人々がざっくばら

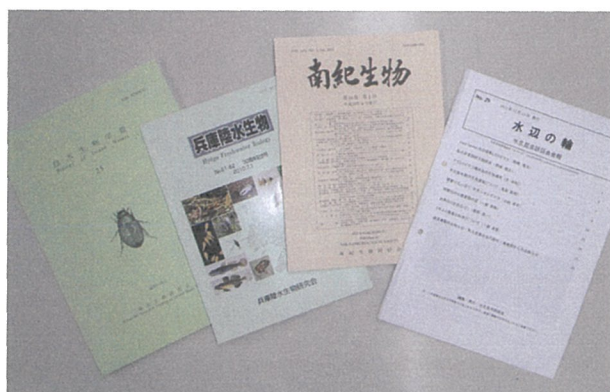


図1 陸水生物に関する研究会誌の例



図2 水生昆虫談話会のホームページ URL: <http://www.002.upp.so-net.ne.jp/ecofront/JAIS/>

んに語り合い、楽しい夜は更けてゆくのである。

インターネットの発達、PDFファイル形式の普及などにより、分類に関する論文の入手は格段に容易になり、近年ではZOOTAXA (URL:<http://www.mapress.com/zootaxa/>)のようなオンラインで電子文書として配布される学術誌も増えている。研究者がブログや所属機関のホームページに最新の分類情報を掲載することも少なくない。このように現在では研究成果を公開する場は多岐にわたり、居ながらにして多くの情報を得られる時代となっている。またskypeやfacebookなどのソーシャル・ネットワーキング・サービスの登

場により、個人を単位としたコミュニケーションの自由度も飛躍的に増している。その利便性は否定しないし、情報収集の目的が明確であれば、オンラインのやりとりだけで手早く有用な情報を入手できる。一方で、水生昆虫談話会のような参加者や話題を限定しないオフラインの集まりには、思いがけない発想や新たな興味の源泉となるネタに出くわすことが期待できる。

このようにして得た知見を業務を通して広くフィードバックできるよう、これからも様々な集まりに積極的に参加して研鑽を積みたいと考えている。